

二次研究協議会の様子

1. レポート発表

各ブロックからのレポート発表で、他のブロックとの情報交流や共通の課題をなどを確認することができた。



2. 分科会討議の成果と課題

<保健室（小）①②>

- ・複数の教師で子どもの情報を共有することで、問題の早期発見、早期対応につながっている。
- ・最近の子ども、親、先生方、学校を取り巻く環境について、活発に交流することができた。
- ・事例交流を行うことにより、各校の様子や日頃行っている子どもや保護者への対応、教師との連携の仕方の工夫など交流することができた。

<保健室（中）①②>

- ・保健室登校を受け入れるにあたっては、校内の協力体制を整えておくことが必要不可欠である。
- ・保健室は、心身の健康問題を発見しやすい場所であり、不登校へのサインに気づくことも多い。そういった養護教諭の特性を理解し、日頃からきめ細かい健康相談を行い、不登校の未然防止に努める必要がある。



<救急処置①②>

- ・多くの事例を振り返ることで、児童生徒の既往歴に関わらず、様々な場面を想定した校内救急体制および危機管理体制づくりの大切さを再確認した。
- ・養護教諭だけではなく、学校全体としての迅速な対応が大切であるため、他の教職員との共通理解を深め、行内研修等を活用した実践的なとりくみも必要であると感じた。
- ・受診の判断基準や観察ポイントを明確にして、養護教諭としての根拠に基づき判断することが大切なことを改めて認識することができた。

<アレルギー>

- ・各校のアレルギー対応について多くの意見交流を行い、課題の共有をすることができた。
- ・校内研修の方法やアレルギー対応マニュアルの共有が出来た。
- ・校内研修でのシミュレーション通りには行かない点も多くある。臨機応変に対応する力が必要である。
- ・学年や発達段階に応じてアレルギーに関する子どもの対応能力を育てていくことが必要であると感じた。
- ・受診の判断基準や観察ポイントを明確にして、養護教諭としての根拠に基づき判断することが大切なことを改めて認識することができた。

<相談活動>

- ・養護教諭の「この子気になる」という感覚や子ども達のつぶやきを丁寧にひろうことが大切だということを再確認することができた。
- ・担任や関係の職員、場合によっては外部の関係機関なども巻き込んで、みんなで対応していく体制づくりが今後も必要であると感じた。

3. 理論研修会

テーマ 「子どもの健やかな成長のために足の健康と靴の知識」
～足育とは？～

講師 株式会社リハ・イノベーション 代表 野崎 円 氏

(1) 足育

「足育」とは、足について正しい知識を得て、いつまでもトラブルのない足を育てること。昨今、子どもの9割に 足の変形があるとも言われ、足育の大切さを実感した。

(2) 正しい子どもの靴選び

- ①甲の高さ（紐やワンタッチテープなど）が調整できること
- ②つま先は広く厚みのあるもの
- ③つま先が少しそり上がっているもの
- ④かかと部分がフィットするもの
- ⑤靴底に適度な弾力があるもの
- ⑥足の曲がる位置で靴も曲がるもの



(3) 子どもに多い足のトラブル

- ①扁平足
- ②外反母趾
- ③内反小趾
- ④ハンマートゥ
- ⑤浮き指



4. 掲示物交流

今年度は各ブロックによる掲示物の紹介を行い、工夫を凝らしたたくさんの作品を交流することができた。

